

最近、授業の省察(reflection)が重視されてきた。これまでも、研究授業とその後の研究協議は、授業力向上の有効な手段とされてきた。なかでも、授業記録をもとにした研究協議は、教師の資質向上に有効であると考えます。

右は、昨年行われた自主公開授業(5・6年生国語科の複式学習)の記録である。5年生は、教材「千年の釘に挑む」で白鷹さんの凄さをさがし、6年生は星野さんの思う自然について感想を交換する場面であった。複式授業を一人で記録を取るのには、不可能だし無謀なことであるが、今回は担任の移動に張り付いて、教師と子どもの発言を記録してみた。授業記録は、翌日以降に行う授業者と授業を振り返る時に使っている。誰しも、頼んだわけでもない記録を基に授業を再度振り返ることを歓迎しているとは思わない。授業者の指導観や子ども観、または子ども一人ひとりへの思いや願いを共有すること、子どもの成長を見取ることを基本にしていくことが分ると、授業公開や授業改善に力が入ることも確認できた。

これまでの子どもの学びを創る会でも、授業VTRと授業記録をセットで研修を行なった。子どもを見取る力を自ら鍛える手法である。上智大学の奈須正裕先生を招聘(2006.10.15)して、原田先生の「総合的な学習の時間」の授業分析は6時間近くも行なわれた。確かに、45分の授業を文字にするにはエネルギーが必要である。まして、自分の授業を振り返るわけだから、後悔・反省の連続となることが多い。しかし、勇気をもって教師と子どもの発言が時系列で書かれている授業記録をもとに、次の3点から授業を丁寧に降り返ってみよう。

- その子は授業にしっかり参加し、思考を深めているか。
- 教師が出るタイミングがその子の思考を深めるきっかけになっているか。
- その子と他者とのかかわり方はどうであったか。

研究授業後の研究協議に授業記録がセットされていることがある。大変な労力にもかかわらず、この授業記録で初めから協議される学校にほとんどお目にかかったことがない。その子が1時間でどのように成長したのか、またその子がどの発言にひっきり思考を深めたかなどを振り返るために有効である。授業記録から多くの職員が目でも振り返り、多くのことを学びたいものである。(芝)

自主公開授業 5年国語科「千年の釘に挑む」 6年国語科「森へ」
授業者 2007.7.4(水)3校時

19年度最初の自主公開授業を提供していただき大変ありがとうございました。

私自身、複式学級の授業の見方や記録の仕方がよくわかりませぬ。複式ですので、子どもの事実をどうしても見取ることができない場面があります。これは、だれが授業をしても参観しても、同じことと思われることかなと思います。

5年生 6年生

10:30 T (中央から各学年に課題提示)

白たかさんのすごさをさがそう。 すぐきな表現をつけよう。自然についての感想交換し合おう。

T それでは、司会の人お願いします。

司会 発表してください。

三浦 大沙さんが発表している。藤井君 改良を続けたいこと。司会 どうとめていいか…。

山本 現代の釘比べて調べたところ。T (板書を見て発表を価値付ける) T 自分は考えてなかった。気が付かなかったところをノートに書いてください。

10:44

10:48

10:54

11:03

11:08

三浦 白たかさんの凄さを聞いて、職人の意地、誇りという言葉が出てきた。

形谷 わずかな裏分にも無駄にならないように…

同教科内容で進められました。5年生の「すごさをさがそう」と6年生の「感想を交換し合おう」という課題を先生が与えられたか、子どもたちから出たものか分りませんが、両学年でも半端ではなかったでしょうか？教師がわかる時間の確保も一方は考えることが求められているので、むしろ5年生の子どもたちには、善後して一人学びをさせ、自問自答の時間を確保させてはどうだったでしょうか？ついで、発表は極力避け、徹底的にノートに白たかさんの凄さをまとめさせてよかったのでは？逆に、6年生には、感想の交換をさせたかったですね。自分の言葉で話し観視して、文章表現に立ち返ることを期待して、話合いに重点を置くようになったのではないのでしょうか？